

「ハウズランド社」の展示場
〒111-0051 東京都台東区
モダン住宅 五反田 吉木家

歴史や思い出が蘇生する家 古民家に学ぶ、美しい住まい

伝統建築で作られた古民家は頑丈で、ゆとりがある。ありのままの自然の木を使い、人と環境に寄り添っている。そこにモダンさと現代技術を加えて、暮らしやすさを実現。家づくりを検討中の人にぜひ訪れてほしい。

木に囲まれたモダンな古民家に「本当の家づくり」を学ぶ

ヨーロッパでは、何百年前の古い建物が今も住空間として大事に使われている。歴史的な建物を現代技術でリノベーションし続けることで、古き良き佇まいと快適なハイテク機能を共存させているのだ。では私たちはどうだろうか。もし実家に残された古民家がある人は、今一度その価値を見直してみてほしい。

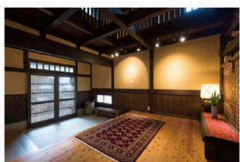
重厚で立派な表構えの古い軒家。玄関の引き戸を開けて中へ入った途端、木の良い香りが漂い、思わず目を閉じて深呼吸したくなった。ここは、革新的な古民家再生を行う「ハウズランド社」のモデル住宅「和の家 吉木家」だ。こんなに木の香りがするのは、これらの無垢材の木が今も呼吸しているからです」と話すのは、同社取締役社長であり建築プロフェッサーの三上信比古さん。吉木家は築90年以上の家屋であり、昔ながらの懐かしさや和の雰囲気はそのままだ。モダンなデザインと最新技術を随所に施しながら再生された。ふんだんに使われた木材は、当時の



築90年以上の古民家だが、最新技術の新熱材やペアガラスを施し、寒さ対策は万全だ



アメリカ製の薪ストーブを設置し、その周りに木と相性が良いレンガを組み立て、空間にアクセントをつけた。パタパタと鳴る音とゆらゆらと灯火に癒される



玄関が広いと、訪問者が気持ちよく出入りでき、家全体のゆとりも伝わる。効果的にムードのある照明をセレクト



地松の梁や柱を残し、新しく導入れた無垢材も古い木に馴染むように調色。室内の壁には、和テイストながらモダンにもシックにも見えることができる西洋漆を採用している。また、2階を吹き抜けにすることで開放感を与えたり、薪ストーブを置いたレンガゾーンを作った空間にアクセントを散けるなど、若者にも親しまれる演出を披露。「ここは自宅というよりもギャラリー。建具を外して、構造を見せる空間にすることで、古い家の素晴らしい建築技術を見て、触れて、みなさんに理解してもらえようとしています」と三上さん。いにしえの住空間の魅力は、まだまだ続く。